

CONTENTS

- 02 特集
“新たな挑戦”と“伝統の継承”
躍動する甲南生たち
- 03 体育会女子陸上競技部
- 07 甲南高等学校・中学校プラスアンサンブル部
甲南大学文化会 JAZZ 研究会
- 11 なるほど! 甲南アカデミア 特別編
エネルギー変換材料研究の最前線
- 13 対談 エネルギーの未来に研究力で立ち向かう
理工学部 機能分子化学科 教授 山本 雅博
准教授 木本 篤志
- 15 さまざまな分野の第一線で活躍する卒業生
It's KONAN Style
俳優・声優 合田 沙おり さん
- 17 高中 TOPICS
つながる、ひろがる甲南スピリッツ!
—甲南祭・第2回ソフィア講演会・音楽鑑賞会—
- 19 KONAN TOPICS
- 21 今だからわかる学びの楽しさ、
いくつになっても成長できる喜び
リカレント教育プログラム
- 23 ソーシャルビジネス・アントレプレナー育成プログラム
受講生インタビュー
- 25 甲南解体新書 #04
覚えていますか? 掲示板
- 27 岡本ぶらり 第14回
知っていましたか?
映画・ドラマのロケ地になった岡本かわいい
- 29 KONAN FORUM
課外活動成果報告/
新刊一覧 ほか

裏表紙 甲南 フォトグラフィー

表紙の1枚
六甲アイランドの南グラウンドで
練習中の女子陸上競技部

特集

“新たな挑戦”と“伝統の継承” 躍動する甲南生たち

100余年の歴史を誇る甲南学園。さまざまなクラブ活動も時代を重ねながら、
数えきれない成果をあげて甲南の名を世に知らしめています。長い歴史の中で、伝統を守りながら
さらなる洗練をめざす活動と着実に成果を重ねる新たな領域での挑戦。
躍動する甲南生たちの一端をご紹介します。





体育会女子陸上競技部の躍進！ 輝かしい戦績の理由



体育会女子陸上競技部顧問
教授 伊東 浩司

体育会女子陸上競技部では、部員たちの意識が高く、切磋琢磨できる良い関係を築いています。選手たちはそれぞれに特性があり、その時々でコンディションも異なります。選手たちが伸びていくために重要なメンタル面やモチベーションは特に意識し、声をかけて指導しています。

甲南大学体育会女子陸上競技部の快進撃が止まらない——。近年、短距離走やリレーのトラック競技をはじめ、走高跳や走幅跳のフィールド競技においても数々の大会で好成績を収めています。昨年秋には日本陸上競技選手権大会・リレー競技の4×100m二連覇、日本学生陸上競技対校選手権大会の個人100mで1位から3位までを本学が独占しました。写真は練習前の部員たち。その元気な笑顔から、明るくはつらつとした雰囲気が伝わってきます。



写真 / Getsuriku

日本インカレ女子4×100mRで初優勝を果たした選手たち

日本選手権リレー女子4×100mを 44秒82で二連覇!!

10月に行われた第107回日本陸上競技選手権大会・リレー競技（以下、日本選手権リレー）で、圧倒的な強さを見せた甲南大学。前年のバトンを受け継ぎ、二連覇を達成した4人のメンバーに、女子陸上競技部の強さの理由を語っていただきました。

—日本選手権リレーで優勝 試合へはどのような 意気込みで臨みましたか？

蔵重 9月に出場した第92回日本学生陸上競技対校選手権大会（以下、日本インカレ）でも、このメンバーで優勝しました。予選においては日本学生記録に0.01秒まで迫ったタイムが出たので、記録の更新は強く意識していました。

奥野 二連覇と日本学生新記録が私たちの目標で、周囲からも期待されていたんです。

岡根 甲南は特にレベルの高い短距離走者が集まっています。その中からリレーメンバーとして選ばれているので、下手なことはできません（笑）。

井戸 このメンバーの強みは、やはり個々の走力が高いこと。短距離走はメンタル競技でもあります。二連覇と日本学生記録更新という明確な目標に向けて、全員で明るく前向きに挑むことができました。

岡根 まじめ上手や盛り上げ上手、しっかり者など、メンバーの個性もよいチームワークにつながったんじゃないでしょうか。

井戸 試合当日の話で言えば、朝から気分もコンディションもすっきりしていて、自分でも「これはいける」と感じる状態でした。

奥野 各自がコンディションを調整して、試合までしっかりと仕上げているところも大きな強みだと思います。

蔵重 試合でバトンパスが着実に行えたことも、優勝につながりましたね。

奥野 私はアンカーを任されていたので、とにかく失敗がないように、3人から受け取ったバトンをゴールへ運ぶことに集中しました。

岡根 結果は44秒82で優勝。日本学生記録（44秒51）にとどかなかったのは悔しいですが、二連覇を達成できてよかったです。

井戸 私は4年生なので、これが学生最後の年です。だから、走りたいと思っていたリレーでの二連覇達成は本当にうれしくて。これから先も甲南の三連覇、四連覇が続いてほしいと願っています。

—日本インカレ100m個人では 1位から3位まで甲南が 表彰台を独占しました

奥野 実は試合前から「3人で表彰台を独占したい」と話していました。準決勝のレースは3人とも1着通過したので、いけるのではないかと思います。過信せず、自分の走りをすることに集中しました。

蔵重 私は直前に痛めた右腿前の筋肉が心配

停滞してしまう傾向があるのですが、甲南では元々競技レベルの高い選手が入学後も自己記録を更新していると知りました。高校時代も競技レベルの高いメンバーがいる環境に身を置くことで成長できた経験があるので、甲南を選びました。

井戸 私が甲南を選んだ理由は、伊東先生の解説をテレビで見ると、興味をもったことがきっかけです。それから先生の著書を読み、さまざまな経験をたどり着かれた考え方を知り、指導を受けたいと思い入部しました。

岡根 高校三年生の夏にケガをして、インターハイに出場できませんでした。伊東先生に「スポーツ選手にケガはつきもの。復帰に向けて取り組めば問題ない」と言っていたので、陸上を続ける気持ちが固まりました。甲南の強さや明るい雰囲気にも引かれ、ここしかない！と思いました。

奥野 私は五輪選手の青山華依さん（宮3）と一緒に走りたいと思って、甲南を選びました。また、体育会であっても大学生らしい自由で華やかな雰囲気にも引かれました。

蔵重 陸上に真剣に取り組みたい気持ちと、大学生としておしゃれも楽しみたい気持ちのどちらも尊重してくれているクラブの考え方が伝わってきますね。



第2走者
岡根 和奏さん
経営学部 経営学科 2年次
試合前にすること：髪をまとめて高い位置で結ぶ。普段はもっと低い位置で結んでいますが、走るときに重心が後ろに下がらないように。

そろっているのも甲南の強さと言えます。

井戸 甲南が優勝争いに食い込んだり、学生記録を更新するなど活躍がめだつてきたのは、ここ数年です。強くなった理由の一つには、練習メニューが変わったことが挙げられます。短距離走者全員が同じ練習をするのではなく、選手の特長に合わせてウエイトトレーニングを重点的にしたり、走り込みをメインにするなど、練習内容を一人ひとり変えるようにしました。

さらに、弱い部分や足りない部分は、それを得意とする選手と一緒に練習することで伸ばしていきます。たとえば、私は瞬発力を高めたいので、瞬発力が高い奥野さんと一緒に練習することでつかみとるようにしています。

奥野 学年に関係なく仲が良いことも、切磋琢磨して強くなれる理由だと思います。部活はいつもにぎやかで、音楽がかかっていると踊り出す選手もいるくらい楽しい雰囲気です。

岡根 明るい雰囲気ですが、練習に取り組むときはみんなの表情も空気が一変。オンオフの切り替えが上手いからこそ、レベルの高い練習ができています。

—なぜ甲南の女子陸上競技部 を選びましたか？

蔵重 女子選手の多くは大学入学後に記録が

第1走者
蔵重 みうさん
文学部 日本語日本文学科 1年次
試合前にすること：前日や当日の朝は普段より炭水化物を多めに食べてエネルギー補給。

でしたが、予選には痛みも引いて間に合わせることでできました。走れる喜びを感じ、予選、準決勝と大切に走って、着実に決勝へ進むことをめざしました。

奥野 決勝のゴールを駆け抜けて、競技場のスクリーンを見上げると、1位2位3位のすべてに「甲南大学」の文字が並んでいて、あれはうれしかったです。

岡根 私は試合前に伊東先生から「自分の思ったようになる」と、ことばをいただいた。勝つイメージで挑みました。結果、勝つことができ、なによりうれしかったのは個人の順位よりも甲南の3人で表彰台に登れたこと。その達成感は最高でした。

—女子陸上競技部の強さの 理由はどこにあるのでしょうか

奥野 短距離走者が多く在籍していますが、試合の出場枠には限りがあります。私自身で言うと、枠に入りたい、走りたいという気持ちで、より速くなりたいとがんばるモチベーションになっています。

蔵重 もしアクシデントが起こって急ぎよりレーンバーを変更することになっても、選手層が厚いので大幅にタイムが落ちることがないと思います。それほど高いレベルの選手が

第4走者
奥野 由萌さん
経営学部 経営学科 2年次
試合前にすること：直前では、気持ちの面で身体がぶれないよう自分の軸を確認。数週間前からは風邪をひかないようにも気をつけます。

井戸 練習内容が一人ひとり違うこともそうですが、それぞれが自分の個性を生かして自由に行いたいんだという雰囲気があります。だから、みんなが伸び伸びと成長できる良い環境になっていると思います。

—短距離走者としての今後の 目標は？

岡根 とにかく今は自分自身をアップデートさせていくこと。優勝したことに満足してしまっているのではなく、この次はさらに上をめざして、現状を超えてレベルアップしていきたいです。

奥野 国際大会に日本代表として出場することです。自己ベストを更新したいのはもちろんですが、トップのレベルで走り続けられるように練習を積んでいきたいです。

蔵重 シーズンは、初めて国際大会アジア陸上競技選手権大会（リレー選手として出場しました。今後は個人種目で国際大会に出場したいと思っています。そのためには自己ベストを更新し、11秒5台をコンスタントに出せるようにしていきたいです。

井戸 4月からは実業団（東邦銀行）に入り、陸上を続けていきます。新しい環境でもより高みをめざし、世界に挑戦していくことが目標です。



中学校リーダー中3 上野 弘峰さん
ブラスアンサンブル部

モットーは「Be Happy Together」 JAZZで世界につながることを実感

ブラスアンサンブル部は、スクールバンドとして全国でも名をはせています。音楽への取り組みの真剣さでは、どこにも負けません。その一方で、どんなときもリラックスして、音楽の演奏を楽しみたいと思っています。わが部がモットーとして掲げているのが「Be Happy Together」です。奏者とオーディエンスが音楽で幸福を分かち合う、そんなおらかなことです。高校の先輩たちとレベルの高い演奏をすることも多く、練習も大変ですが、Happy Together になれる瞬間のことを考えると、何時間でも練習に打ち込めます。つい最近、ジャズをやっていた心からよかったです。秋にシドニーから日本へ演奏ツアーに来ていた市民ジャズバンドと交流演奏会をしたのですが、一緒に楽器を鳴らしているだけで、ことばはなくても不思議と気持ちに通じ合えました。生まれた国は違っても、自分たちが音楽という同じ世界に住んでいると感じられました。高校へ進んでもジャズを続けていくつもりですが、また何度か同じような体験ができると思うと、楽しみでなりません。

中学校 ブラスアンサンブル部

「Jazzの甲子園」とも言われるJapan Student Jazz Festivalに毎年のように出場。2023年は中学校の部で「兵庫県知事賞」を受賞。

名門に連なる誇りと情熱 音楽を通じて甲南スピリットの継承を

ブラスアンサンブル部からは、多くのプロミュージシャンが巣立っています。名だたる先輩たちの演奏を聴くにつけ「自分は一步でも近づけるのか」と身がすくむ思いになります。同時に、そういった名門に連なることへの誇りを感じます。甲南は多くの生徒が中高を通じて6年間、同じクラブに所属するという校風です。特に、私たちの部では、中・高校生が同じバンドとしてステージに立ち、中学1年生と高校3年生が隣り合せて練習に取り組むといった風景も見られます。自分の感覚を思い返しても、4、5歳年上の人たちというのは大人に見え、音楽の技量も圧倒されるばかりでした。そうした先輩たちを仰ぎ見て育った5年間は、自分にとって人間的な成長にもなったと思います。ですから、今の高二、三年生の姿を見て、ずっと年下の後輩たちが成長の糧にしてくれれば、と願っています。こう話していると、まじめ一徹の部活動のようですが、私たちの自慢は自由闊達な雰囲気です。ものごとに真剣に打ち込む姿勢とともに、ジャズのスピリットであり甲南の気風でもある軽やかで柔軟な精神が、継承されていってほしいと思います。



部長高二 山下 哲平さん
ブラスアンサンブル部

高校 ブラスアンサンブル部

Japan Student Jazz Festivalに毎年出場。2023年は高校の部で「日本学校ジャズ教育協会会長賞」を受賞。

受け継がれる伝統と 奏でる楽しさ、 響き合う、音楽の力

— 甲南高等学校・中学校ブラスアンサンブル部、甲南大学文化会 JAZZ 研究会 —

日本で最初のプロジャズバンドが神戸のオリエンタルホテルで演奏をしたことから、神戸はジャズ発祥のまちとされます。

その初演奏から100年目の2023年、「神戸ジャズ100周年」を迎えました。節目を記念した演奏イベントにブラスアンサンブル部とJAZZ研究会が参加するなど、地元を大いに盛り上げました。ブラスアンサンブル部、JAZZ研究会はプロミュージシャンを世に送り出している名門として知られています。今回は、それぞれの部で活躍する生徒と学生に取材し、音楽愛と活動への思いを語ってもらいました。



<ブラスアンサンブル部>

リコーダーアンサンブル、木管アンサンブルの演奏クラブとしてスタートし、ブラスアンサンブル部となる。40年以上の歴史をもち、トランペッター黒田卓也さん、広瀬未来さんらのプロミュージシャンを世に送り出している。



文化会JAZZ研究会
なかの
部長 中野 美月さん (法学部 法学科 3年次)

100年続く神戸のJAZZ文化を 多くの人たちと分かち合いたい

音楽を本気で楽しみ、人間力を育む先輩たちとの絆が深まり視界もひろがる

JAZZ研究会(以下、JAZZ研)は、2002(平成14)年に文化会所属のクラブ活動として認められました。集まるのはすべて、ジャズを本気で楽しみ、創りあげていく人たちです。私は高校の時からサクスを吹いていて、ジャズができる大学を探していたので、甲南のJAZZ研を見つけたときは非常にうれしかったです。ビッグバンドでは、小規模バンドとは比較できない圧倒的な音の深さと厚みが生まれます。人数が多いため、練習で1フレーズを合わせるだけでも数時間かかるほどなのですが、一つひとつ積み上げてその成果をオーディエンスに届けるときは、ことばで言いつくせないよさがあります。

神戸はジャズ発祥のまち。港のある国際都市で、お酒落なジャズが似合うロケーションがたくさんあります。ジャズに関わるイベントが毎年いくつも開かれています。私たちJAZZ研も毎年20以上の催事に招かれます。2023年は「神戸ジャズ100周年」にあたるので目が回るような忙しさでしたが、記念すべき年

文化会JAZZ研究会

学内外での演奏活動を中心に、ヤマノ・ビッグバンド・ジャズ・コンテストや国際ジャズオーケストラ・フェスティバル(通称ステラジャム)などのJAZZの全国大会に出場。

にジャズゆかりのさまざまな場所で演奏できたことを誇りに思います。私はジャズのストリートイベントが大好きです。愛好者が集まるクラブなどは違い、日頃はジャズとは縁のない人、子どもからお年寄りまでいろいろな人が私たちが奏でる音に反応してくれまます。旧居留地で行われるジャズイベントでは、音楽に合わせてステップを踏む人、踊りだす人も。これこそがジャズのスイング。演奏者とオーディエンスが大きな波に包み込まれる至福の時間です。

JAZZ研には二つのビッグバンドがあります。各バンドに統括するコンサートマスター、部会代表、会計などの執行部があって、全員が役割を担い運営に参加します。演奏力だけでなく、コミュニケーション能力など社会で役立つ人間力を磨くことが目標です。また、卒業生とのつながりが強く、音楽だけではなくさまざまな面で視野が広がります。ジャズを楽しむ、人間力を磨いていく、JAZZ研での体験は生涯の宝になると思います。



部室前に掲げられている木製の看板



2023年8月に出場した「ヤマノ・ビッグバンド・ジャズ・コンテスト」のNPの演奏



部室の壁を埋めつくす数々の賞状



<Newport Swing Orchestra>

ジャズ経験者を中心に構成するオーケストラバンド。略してNP。Count Basie楽団の曲を中心に演奏。ヤマノ・ビッグバンド・ジャズ・コンテストのソリスト賞や奨励賞など多くの賞を受賞。

KOBEの人とまちをスイングさせる演奏を!

甲南大学文化会 JAZZ 研究会



<Big Mountain Jazz Orchestra>

ジャズ経験者から楽器の初心者まで幅広いメンバーで構成するオーケストラバンド。略してBM。Count Basie楽団の曲のみならず、Gordon GoodwinやBuddy Rich、Glenn Millerなどさまざまな楽団の曲を演奏。